明田フォトプロジェクトについて

戦後復興期の広島を中心に、中国地方など各地を撮り続けた写真家 明田弘司（1922～2015）が遺した 47,000 枚を超える貴重な写真資料が、広く活用され、後世に伝えられるようにすることを目的としています。
写真資料の使用を希望する団体や企業への貸し出しに加え、写真の選定やキャプション提案などの協力もしています。
メンバーは、著作権継承者代表(遺族)と被爆 50 年史を編さんした広島市ＯＢ、事務局の 3 名で、現在は新たな写真集出版に向け、毎週木曜日に活動しています。ふむふむ助成金を活用し、写真資料用にパソコンを購入。作業・保存の環境が格段にアップしました。

明田さん 36 歳のころ／昭和 33（1958)年

オタフクソース㈱お好み焼課「オンライン食育でのお好み焼歴史紹介」動画に、昭和 32(1957)年「東新天地広場」（現在の新天地公園付近）の写真をご使用いただきました。（画像は動画の一場面）

「忠海」レンガ工場とＳＬ(呉線)／昭和 40(1965)年　竹原市

樹林舎『写真アルバム 東広島・竹原・大崎上島の昭和』(8/5 発行)
上記のほかにも、西条駅から写した酒造会社群の当時の様子や、
椋梨ダム建設現場、入浜式から流下式へ製塩法が移行していく
竹原の塩田の様子など、6 点をご掲載いただきました。

広島市公文書館の企画展にて、東京オリンピック聖火リレーの様子（チラシ左上写真）や、本川小学校水泳授業の教師と少年たちが原爆ドームを背景に相生橋を渡る写真など、３点をご展示いただきました。

広島市立大学と中区役所が連携し、地元住民とともに基町地区の活性化に取り組む「基町プロジェクト」のオンライン・トークイベント『土曜日の先生』に、２週にわたり出演しました。
翌年２月からは配信を見て興味を持ってくれた学生さんも加わり、延期していた写真展「明田弘司と、基町」(4/1～17 開催)の準備に取り組みました。若い世代のみなさんにも明田作品の素晴らしさを伝えられる、いい機会となりました。
★ アーカイブ ⇒「基町プロジェクト」ホームページからご覧いただけます。

音戸大橋開通 60 周年記念写真展 12 月に３会場で開催、７点ご展示いただきました。

音戸大橋料金所／昭和 39(1964)年
当時はまだ有料で、通行時間にも制限があった。
張り紙には縦書きで以下のように書かれている。
「お知らせ　営業時間改正について
昭和三十九年八月一日より左記の通り改正
午前六時より 午後十一時まで 一時間延長」

音戸の人々／昭和 29(1954)年
路地の駄菓子屋さん